



平成十八年八月二十日  
〒九三三〇八〇四  
高岡市問屋町四十  
有限会社 沖商店発  
2015年7月21日  
TEL 〇七六六一五二五五  
FAX 〇七六六一五二五〇  
E-mail info@oki-shouten.com

いつもお世話になりありがとうございます。

『人は何の為にこの世の中へ生まれて来たのでしょうか』『人生の本来の目的は何なのでしょう』という二つを皆様と一緒に考え、意見を交換し相つて、共に研鑽を深めて行きたい。そんな思いで本通信をお届けしている次第です。どうか忌憚の無いご意見をお寄せくださいませ。

一 情けは人の為ならず

「情けは人の為ならず」と言う諺があります。その意味は「人に情けをかければ、必ずそのよい報いが、自分もしくは自分の子孫に、何時かは返ってくるものだ。だから見ず知らずの人にも親切にしてあげましょう。困っている人を見たら助けてあげましょう。それは決してその人の為だけではなく、ひいてはあなた自身の為になることなのです」と言うのが一般的な解釈でしょう。

ところが数年前の新聞に、大学生にアンケートをとったところ「人(他人)に親切にしたり、助けてあげたりしたら、その人の為にならない。なぜなら、苦労・困難は、その人をより強く、よりたくましく育てる。それなのに、その苦労・困難を柔らげてあげるとか、無くしてあげることは、その人がその人の向上のために天から与えられた、折角の修行の機会を邪魔することになるから」と答えた者が多数いたという記事が載っていました。

当時は、このほどさように近頃の大学生(高校生以下はなおさらのこと)は国語力に劣っているという解説も加え、「しかし、そんな解釈も一理あるか」と笑う話のひとつとして紹介してありました。

しかし、後者の様な解釈は宗教界においては常套的に度々取上げられている手法です。

即ち、眼前の苦しみ・悲しみに対して、それを柔げ、それを克服する為の考え方・心のあり様を示したもので、今受けている苦難をそのまま真正面から真正直に受けるのではなく、「この苦難は神・仏・天が自分を

鍛え試しておられるのだ」と思うことによつて、押し潰されそうになる心を、苦難に耐え、苦難を乗り越える前向きな心に代える手段なのです。

でも、一般的には前者の解釈がほとんどでしょうし、私の解釈も前者でしたので、この記事を見た時は大笑いしました。

ところが近頃の日本においては「一理ある」ではなく、「ひょっとして後者が正しいのではないか」と思われることが度々あります。

それは、時代の流れと申しましようか、時代の違いと申しましようか、その時代の生活様式の違いからくる考え方・価値観の違いが原因ではなからうかと思えます。

昔(太平洋戦争以前)は経済的に貧しく、人々はお互いに助け合つて暮らしていました。宗教心・道徳心は旺盛で、他人との付き合い方にも気を配り、優しく人に親切にするのが美德でした。そんな中では「情けは人の為ならず」||「人に情けをかければ、必ずそのよい報いが、自分に返ってくるものだ」と言う解釈が当然といえましよう。

ところが近頃の日本人は、物質的には豊かになつたかもしれないが、精神的には貧しく弱くなつたと思えます(言い換えれば、物質的に豊かになつたから、物の大切さ・物に対する感謝の念が薄れ、金儲け本位の考え方が蔓延し、心が荒んで貧しくなつたのです)。

先日、或る新聞に「学校給食の食事を考える際に『いただきます』と言わせないでください。給食代金を支払っているのに、何のために物を貰つた時の感謝の言葉ともいえる『いただきます』を強制しますか」という保護者(馬鹿な母親、もしくはそんな馬鹿な妻の尻に敷かれて妻の言う通りになつている情けない父親)のことが報じられていました。勿論、ごく少数の馬鹿な保護者の非常識な発言なので、記事として取上げられたのでしようが、このほどさように近頃の日本人の心が腐つていと言えましよう。これに対する解説の必要は無いと思ひますが、念のため補足しておきます。

「給食代金を支払っているから『いただきます』と言わなくても良い、否、言わせないでください」とは、いくら宗教心が無くても、いくら教養が無くても、よくも言えたものと思ひます。この人は、この世の中は全て金銭で解決でき、金は自分の力であり、代金を払つて手に入るものは全て自分の甲斐性で手に入れたものと思つている人です。

自分が食しているものは全て命あるもの、生物であることを判っていない(そこまで考えが及ばない)他の生命を犠牲にして自分が存続している、他の生命の犠牲なくしては自分の生命の維持はできない、と言ふことが解らないのです。そこには自然(神・仏・天)に対する感謝の念が微塵もありません。

自然の生命は、弱いものは肉となり強いものがそれを食す、まさに弱肉強食。しかし、自然は一見残酷に見えても、ちゃんとバランスの取れた仕組みになつていのです。自然の恵みに感謝しない、他の生命を大切に思わない(代金を払つて手に入るものは全て自分の甲斐性だから)馬鹿者が自然のバランスを崩すのです。捕獲技術が劣つていた昔は、経済的にも貧しく、自然の恵みに感謝して大切に考え、こんなことはありませんでした。

「いただきます」は、その食べ物を作つて目の前に出してくれた人、その材料を運んでくれた人、それを収穫してくれた人だけに言うのではなく、自分の生命の維持のために犠牲になつた他の生命に対して『あなたの命をいただきます』という思い・心を感じ謝を込めて口にするのです。

ある幼稚園の運動会で、手を繋いでの走り合い競争をさせ、「こちらではこれほどに『皆さん、仲良くしましよ』というのを教えています」と豪語しているというのを耳にしましたが、運動会とは何のためにいい、教育とは何であるかが判つていのかと言ひたいです。

彼は彼、此は此、他人の子には他人の子の勝れた処があり、自分の子には自分の子の勝れた処があるのに、全ての事に対して自分の子が勝れていることを望み、他人の子を妬み、自分の子にムチ打ち、そのため裏面では、いじめや登校拒否が多発しています。ここにも出来の悪い、馬鹿な母親とそれを抑えきれない情けない父親がいます。

この間違つた愛情が、幼稚園から小学校・中学校・高等学校・大学・果ては社会人になつてからまで、しつこく着いて来て子供(日本人)をだめにしています。今、戦後教育の見直しが盛んに論じられていますが、この点だけは絶対に改革して頂きたい、否、我々国民ひとり一人の自覚と努力によつて、改革しなければならぬと思ひます。

「ニート」「ホームレス」の多発は、この間違つた愛情・その愛情に歪められた本人の甘え・そしてそれでも生活して行ける日本の物質的豊かさがもたらした象徴的現象でしょう。

求人広告を出しました。応募した人の中でこちらの期待する仕事をしてくれそうな人を採用します。私どもは大会社ではありませんので、採用のノウハウも社員教育のノウハウも乏しく、勤めて貰つた後、少し期間を持たないと本人の技量が判りません。それで三ヶ月の試用期間を設けて採用します。ところが何時まで経つてもこちらの期待する仕事をしてくれません。こちらは折角縁有つて我が社へ来た者を何とか使ひ続けたいと思ひ、その由を本人にも言い試用期間を延ばします。でも、駄目な者は駄目です。そこで解雇を言い渡すのですが、この時の辛さ、相手の恨めしい態度、採用初めは「よくぞ、私のような者雇つてくださった。この会社のために何とか役に立ちたい」と思つていたのでしよう。でも、会社の期待する処と自分の能力のギャップがはつきりした時点で、大抵の人は自分の能力の拙さを棚に上げ、会社の期待が大き過ぎるのだと雇用主を恨みます。終いには敵同士のような感情になります。「初めは感謝、慣れると当然、終わりは不満」です。だから近頃は駄目と思ふ人には、早目に解雇を告げるようにしています。

私どもの会社は、季節による繁閑の差が大きいです。それで閑期はなるべく休みにし、その代わり繁期には休日出勤・時間外労働をお願いしています。これは当然雇用前に通知してあり、お互い承知の上でした。ところが、閑期の休日は会社の都合、繁期の休日出勤・時間外労働は特別出勤と思うようになり不平をもちます。それも、直接言つて来るのなら相談にも乗れますが、何も訴えずに突然退社意志を伝へ辞めて行きます。突然首になつたら困るでしょう。なのに自分は平気で突然辞めて行きます。こんな者には退職金を払わねば良いと思ひますが、中小企業退職金共済に加入しているので、我が社から新ためてお金を出す必要が無いのもあり、退職金自動振込の手続きをしてあげます(退職金は自動的に本人に振り込まれる)。しかし、今後はこのように理不尽な者には退職金を支給しない(手続きしない)様にしたいと思ひます。

この様に「情けをかければそれを仇で返す」ような、精神的に貧しくなつた現在に於いては「情けは人の為ならず」||「情けはその人の為にならない」と言う解釈の方が正しいのではないかと思ひます。

有限会社 沖商店 代表取締役 沖昌弘  
個人メール E-mail oki2525@oki-shouten.com  
TEL 0763-252525 FAX 0763-252525  
〒933-0804 高岡市問屋町40-4